

29年度年間計画の「散策」初回です。今回は梅雨入り直前の6月6日（火）に、横浜は戸塚の旧跡戸塚宿の史跡を訪ねて歩きました。当日は高曇りの中、講師横田巖氏のご案内で20名楽しみました。



《横浜市営地下鉄・戸塚駅コンコースの、「広重の浮世絵」の前で》

歌川広重の「東海道五十三次之内戸塚」に描かれた「戸塚宿」を代表する場所の一つです。その複製、大掲額の前で、横田先生の解説です。戸塚宿「ふめや」の前で、馬から降りる旅人が描かれています。



《上方見付跡》

見付とは、宿場の入り口、出口を指します。京都側を上方、東京側を江戸見付と云います。江戸方見付から約2.2キロの距離にある上方見付跡は、昭和63年に横浜市地域指定文化財に指定され、高さ50センチほどの石囲いの中に、昔と同じように、京に向かって左に松の木、右に楓の木が植えられています。



《親縁寺に入ります》

区内唯一の時宗の寺で、元応元年（1319年）に遊行寺の呑海上人が開いたとされています。
ご本尊は寄木造の阿弥陀三尊です。

生涯学習西柴の手旗・・・（先頭が黄色、後尾がピンク）・・・が参加の皆さんをエスコートします。



《富塚八幡宮》

戸塚宿の総鎮守で祭神は誉田別命（ほむたわけのみこと・応神天皇）と、富属彦命（とつきひこのみこと・相模の国の国造りの弟と云われる）の二柱です。社殿の裏の山は古墳で、富属彦命の墓と伝えられ「富塚」と呼ばれ、これが戸塚の地名の起こりともいわれています。また、境内左側に松尾芭蕉の“鎌倉を生きて出けむ初鯉”の句碑があります。



《清源院の由来解説を聴く》

浄土宗のお寺です。徳川家康の側室の一人であったお万の方が駿府へ家康の病氣見舞いに行った際に拝領したと云われる「齒吹阿弥陀如来」が本尊です。家康の死後お万の方が尼になり、この寺に入ってから清源院と改めたと云われています。境内には松尾芭蕉の句碑、心中句碑、お万の方の遺骸火葬跡の碑があります。

芭蕉の句碑・・・世の人の 見つけぬ花や 軒の栗・・・

心中句碑・・・井にうかぶ 番ひの果てや 秋の蝶・・・



《善了寺でびっくり》

天福元年（1233）江戸麻布善福寺の僧了全が浄土真宗のお寺として開山したそうで、本堂前には親鸞聖人像が建っています。現在の本堂の壁は、万物すべて自然に還るとの考えから、茅の茎を束ねたもので造られていました。

次回は、7月4日（火）、大貫昭彦先生のご案内で、「鎌倉・雪の下路地歩き」です。

（おわり）